



編集後記



編集後記

記念誌委員長 矢島 寛

皆様からのお力添えを頂き、スタッフの努力と情熱に支えられて無事に、「明日に向かって・創立 50 周年記念誌」を刊行することが出来ました。多くの会員の皆様とスタッフに感謝申し上げます。

私たちスタッフにとって、50 年の歴史は重く、創立当初の事柄や子クラブ設立、インターアクト創立、ローターアクト創立など全てが入会前の事柄で、編集を行うにあたり、そのイメージを作る事が出来ずに苦労を致しました。

親クラブである東京東 RC の記念史や子クラブである東京葛飾 RC・東京足立 RC の記念史をお借りしたり、田中三郎さんや磯貝俊一さん、鈴木又右衛門さん等から古い写真集をお借りしたり、求める事が出来る全ての資料を閲覧したりして、少しでも当時に近付いたところで、編集の考えをまとめたいと思いながら進めて参りました。

創立 50 周年記念事業や記念式典が盛大に行われた事を後世に伝えるには、どのような構成や編集が必要なのか？、古い歴史の選択方法や色々な事柄の強弱、更には「明日に向かう」正に一ページである雪が降る中の記念植樹、50 年の歴史の中にありながら故人となられた方々の追悼法要など考えなければならない事柄が沢山ありました。

構成・編集、或いは写真の枚数、予算との兼ね合いなど、色々と考えて頂いたスタッフの原田寛さんと小林光夫さんには、心から深い感謝とねぎらいの言葉を贈りたいと思います。原田さん、小林さんを中心に、伊奈さん、坂田さん、海老沼さんのスタッフのお陰で今日を迎える事が出来ました。ここに改めまして、スタッフの皆様とご協力を頂いた多くの皆様方に感謝申し上げます。

この「明日に向かって・創立 50 周年記念誌」の最後の仕上げをして頂くはずだった山佐福栄さんの突然の訃報は大きなショックでした。スタッフであり印刷担当の山佐さんの遺品として、山信印刷に印刷・製本を依頼するのか、過去を引きずらずに「明日に向かって」新しい方策を模索し完成させるのか、スタッフ一同悩みましたが、新しい方策を模索する方を選ばせて頂きました。その事を了として頂いた佐藤徹創立 50 周年記念事業実行委員長にも感謝申し上げます。山佐福栄さんの想いと共にこの記念誌を残したいと思います。

合掌



編集を終えて

原田 寛

「歴史と伝統」との一言が我がクラブの枕詞のように使われています。

入会当初からこれを何気なく使っていましたが、この50周年記念誌の編集を終えて、その意味がまさに理解でき、その重みも実感しているところです。創立以来の会員のお一人、お一人が我がクラブの様々な活動に携わり、また地区内に限らず、国際的なクラブ交流にも尽力された諸先輩のご活躍があったからこそ、現在の我がクラブの「歴史と伝統」が培われたことと思います。それを更に発展させることが、今後の我々に課された使命ともいえ、心引き締まる思いです。

また、この50周年記念誌では、会員皆様それぞれにお書きいただいたプロフィールを掲載しました。年譜、活動記録等では得られない、皆様の思いが伝わって来るような、会員皆様による手作り感覚のものともなりました。どうぞ、ご覧いただきたいと思います。

ただ、残念なことに、最終的な印刷を担当する山佐福栄会員が編集集中に逝去されたことです。ご冥福を祈ります。

編集後記

小林 光夫

創立50周年の記念すべき年度に私がクラブに在籍できた事を大変光栄に思います。

私は弊社の業務上、記念誌委員を拝命いたしました。記念誌委員会の中には、優秀な方々が選ばれましたが、中でも入会以来、色々のご指導を頂いていました印刷会社の山佐福栄さんと一緒に仕事を進める事ができる楽しさを感じていました。「こういう体裁で、こんな風に進めよう!」、そんな話を度々していました。しかし、記念誌の編集集中に山佐さんが体調を崩され、逝去された事で物故会員として掲載することになった事が悔やまれます。ご冥福をお祈りいたします。

この記念誌の編集集中にクラブ内容を確認する事によって、東京江北ロータリークラブの伝統や歴史を再確認いたしました。今後もこの伝統を絶やさぬ努力が必要なのだと実感した次第です。

この度は発行が皆様のお気持ちよりも遅れました事お詫び申し上げます。



編集後記

坂田 修一

東京江北ロータリークラブ創立 50 周年記念式典が大成功に執り行われました事を心からお祝い申し上げます。

私事で恐縮ですが、丁度一年前、青天の霹靂とはこのことで、記念誌委員に任命され大変戸惑いました。理数系でしかも体育会系である私の一番苦手の部門だからです。如何して私なのかと疑問に思いながらも「頼まれ事は、断ってはならぬ」のロータリー精神で不本意ながらもお受け致しました。

記念誌委員会の委員長はじめ委員のみなさんの足手まといにならないように、私に何が出来るのか自問自答。そして、これしか無いと結論に達したことは、過去の膨大な写真を整理し、その年度に必要な写真を提供する事でありました。加えてイベントごとの写真撮影を担当させて頂きました。なんとかお役を果たせたのかな、とホッと一安心を致しております。

記念誌委員会委員として

海老沼 孝二

記念誌委員会の一人として記念誌編集のお手伝いをさせて頂きました。

記念誌編集のお手伝いをしながら、東京江北ロータリークラブの歴史を改めて認識する事ができたのは、次年度の運営に携わる身として幸運でした。

そして、50 周年記念事業の全ての行事において、クラブメンバーが持てる力を発揮し、その集大成として記念誌が出来あがった事にこの上ない喜びを感じています。

残念なことに、印刷を担当するはずだった山佐福栄さんの突然の訃報は、素晴らしい仲間を失った大きな悲しみでした。

しかしながら、この 50 周年記念誌はクラブの歴史の中で、生き生き活動してきた皆様の思い出がいっぱい詰まった記念誌です。この記念誌の中に山佐さんも生きています。

50 周年記念誌はクラブ会員のみならず、歴史を刻んで頂いた関係者全員の財産です。

素晴らしい記念誌が完成したことに感謝し、記念誌委員会の一人として御礼申し上げます。



50 周年記念誌の編集概要

当クラブ創立から 50 年間の歴史・あゆみ概要を掲載するにつき、下記のようにした。

1. 従来の記念誌（「…年史」）においては、それ以前に発行された「…年史」後の年譜を掲載しているので、本記念誌では、創立時から 40 周年までは簡略にし、その後の 50 周年に至る 10 年間は従来同様に詳しい活動記録を行事写真と共に掲載した。

また、ロータリー年度毎に主な「世の中の出来事」を掲載し、時代背景を明らかにした。

50 年間の活動につき、子クラブの創立、インターアクト活動、ローターアクト活動、夏期交換学生プログラム、当クラブ独自のあいあい特別活動、クラブ基金、卓話それぞれにつき、それらを纏めて掲載した。

尚、卓話記録は、従来の「…年史」に掲載した分を除く過去 10 年間分を掲載した。

2. 記念式典（記念例会・記念コンサート・祝宴）、記念事業（記念植樹、物故会員追悼法要、ウォルナット・クリーク RC 歓迎）等は、報告・記録として纏めた。尚、撮影した写真は全部で約 1000 カット数に達したが、その多くは紙数の関係で掲載を断念した。

3. クラブとしてのロータリー活動は、主として地区における諸活動を当クラブからのガバナー、分区代理、ガバナー補佐更には関係委員会その他への派遣者名と共に明らかにした。

また、当クラブ関係の米山奨学生、青少年交換学生にも連絡し、お寄せいただいた祝辞、思い出その他の寄稿文を掲載した。

4. 諸資料、諸記録では、50 年間の全会員の入退会日、出席率、収支関係等を掲載し、特に米山記念奨学事業における寄付者・法人等を明らかにした。

5. 当クラブ会員には、ロータリーに関するそれぞれの思い・感想その他をそれぞれで纏めていただくことをお願いし、それらの感想等を会員・家族写真と共に掲載した。ただ、ご高齢その他のために感想等をお寄せいただけなかった会員については、当クラブで従前に発行した「私の職業」から抜粋・要約したものを掲載した。

掲載に際し、会員一人分として予定した字数よりも相当にオーバーした原稿が多かったために、掲載スペースを大きくして会員一人に 1 頁を当てることにし、また、会員・家族写真もカラー化で対応した。

編集資料

東京江北ロータリークラブ関係

十年史／十五年史／20 年のあゆみ／二十五年史／三十年史／四十年史

写真アルバム（鈴木又右衛門／田中三郎／磯貝俊一／今井保／坂田修一／原田寛／小林光夫）

週報、ガバナー公式訪問報告書、「クラブの歴史とあゆみ」、各委員会記録、理事会議事録、クラブ細則・内規、会員名簿、「私の職業」、「ロータリー情報マニュアル」、インターアクト年次大会報告書

記念植樹式／物故会員追悼法要／記念式典の写真撮影担当……八木幸治（株式会社八木スタジオ）

参考にした他クラブ記念誌（誌面をお借りしてお礼申し上げます）

東京ロータリークラブの 80 年／輝く年輪 我が大地 70 周年記念誌・帯広ロータリークラブ／10 年史・東京東ロータリークラブ／一隅を照らす・東京東ロータリークラブ五十年の歩み／50 周年記念誌・東京日本橋ロータリークラブ／10 年史・東京葛飾ロータリークラブ／40 年誌・東京葛飾ロータリークラブ／四十年誌・東京向島ロータリークラブ／10 年史・東京足立ロータリークラブ／30 年史・東京足立ロータリークラブ

50 周年記念誌
明日に向かって

発行日 平成 22 年 6 月 30 日

編 集 50 周年記念誌委員会

発行者 東京江北ロータリークラブ

表紙・扉（題名・書とも佐藤徹 創立 50 周年記念事業実行委員会委員長）